

講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

第559回北九州地区小児科医会9月例会

日時：2019年9月19日（木）19:30～20:30
場所：北九州市小倉医師会館 4階
特別講演：「そだちと自己肯定感～小児科医の役割～」
演者：糸島こどもとおとなのクリニック
児童精神科 笠原 亜希子 先生

第560回北九州地区小児科医会10月例会

日時：2019年10月17日（木）19:00～20:30
場所：北九州市立八幡病院 4階 会議室
演題：「本邦における脳死下臓器提供の現状と課題」
演者：北九州市立八幡病院
小児救急・小児総合医療センター 西山 和孝 先生
特別講演：「こどもの看取りとグリーフケア
～脳死に陥ったこどもたちに施す医療とは何か～」
演者：富山大学医学部小児科学講師 種市 尋宙 先生

産業医科大学カンファランス・セミナー

第9回八幡地区病院小児科合同カンファレンス（終了）

日時：2019年9月9日（月）19:00～
場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室
テーマ：死亡症例を経験して伝えたいこと
症例1：フロッピーインファントで心肺停止した生後6か月女児例
産業医科大学小児科 福田 智文 先生
症例2：インフルエンザ感染を契機に多臓器不全で死亡した9歳女児例
北九州市立八幡病院小児科 藤崎 徹 先生
症例3：起床後になんともなく元気がなく、午前中にかかりつけ医で補液治療を受け帰宅。その数時間後に、ショック死に至った症例
JCHO九州病院小児科 花木 由香 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2019年10月24日（木）18:00～
場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室
演題名：乳幼児健診での診るべきポイント
～早期発見のために～
演者：石井 雅宏 先生、福田 智文 先生

※10月の産業医科大学小児科クリニカルカンファレンスは
お休みです。

その他講演会などのご案内

第424回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2019年9月26日（木）19:00～
場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター
演題1：左肺無形成を伴った先天性食道閉鎖症（Gross A型）
の一例
演者：北九州市立医療センター 小児外科 石本 健太 先生
演題2：治療に難渋した重症漏斗胸の一例
演者：北九州市立医療センター 小児外科 田口 匠平 先生

第425回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2019年10月24日（木）19:00～
場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター
演題1：小児発達外来でのインチュニブの使用経験
演者：北九州市立総合療育センター 小児科 鈴木 聖子 先生
演題2：私を育ててくれた障害児との
インテグレーションキャンプ
演者：北九州市立総合療育センター 小児科 高野 志保 先生

八幡小児科医会学術講演会

日時：2019年10月10日（木）19:00～
場所：千草ホテル 本館2階「光琳の間」
演題：食物アレルギーの経皮感作と保湿スキンケアの重要性
演者：島根大学医学部 皮膚科学講座 講師 千貫 祐子 先生

第80回北九州小児神経懇話会

日時：2019年9月27日（金）18:45～
場所：リーガロイヤルホテル小倉
演題1：ペランパネルが著効したがそれによるDIHSを
きたしたラファロ病の1症例」
北九州市立八幡病院 小児科 八坂 龍広 先生
演題2：結節性硬化症のウエスト症候群に対しビガバトリンと
ACTH 療法を併用した1例
産業医科大学 小児科 五十嵐 亮太 先生
特別講演：「地域で支える発達障害臨床」
西川医院 発達診療部・発達障害研究センター
診療部長・センター長 林 隆 先生

保険診療メモ

「小児科保険診療メモ」をより身近に

福岡県小児保険審査連絡会の委員は、診療所や病院の医師との連携により公正で安定した小児科診療が継続するようとの思いで、毎月の「保険メモ」を書いてきました。今回は趣向をかえて2011年10月から2019年6月までの約9年間の「メモ」を項目別に分類し、さらに重要な事項を抽出して一覧表を作成しました。この間に、佐賀に始まった持ち回りの九州連絡会が全県をまわっており、その報告の概要は来月提示する予定です。

保険診療の基本は保険医療費担当規則の適切な運用ですが、その解説書（いわゆる青本）を理解することは必ずしも容易ではありません。「メモ」では、審査の実際や毎2年の改訂解説のほかに、小児科審査の特有の「重要項目」繰り返されています。電子レセ・画面審査など時代のながれ、コンピューター審査への工程が話題になっていますが、なじまない部分—たとえば医師の裁量範囲や、県下の施設を一覧することにより見える傾向的診療への審査員の対応にも注目してください。そして、日常の保険診療と請求や、査定や返戻の意図の理解に活用してください。

原本として、福岡県小児科医報（2012年 No.50から2018年 No.56）あるいは福岡地区小児科医会年報「たんたん会会報」にまとまった印刷物がありますので、コピーを手元におかれてはいかがでしょうか。その際、この分類リストが役に立つことを期待します。

ほかに、県医師会編集の「保険診療の手引き」（2008年初版から2018年第6版まで）には、各科で留意すべき事項として要約版「小児科」があることを申し添えます。

（福岡県小児科審査員連絡会）

保険診療メモ

「小児科保険診療メモ」をより身近に

保険メモ 一覧 (分野別) : 2011. 10 - 2019. 7			
年月	題名	分野	内容 (Key words)
2012.5	縦覧点検と突合点検が始まって、再度お伝えしたいこと	審査総論	2012年3月から、縦覧は6か月間、連月・短期間の反復検査、処方突合；適応、外用薬
2014.4	再度、縦覧・突合を考える	審査総論	社保・国保の相違、確定病名で治療、日付、非適応例；シングリアDS、メキタジン
2014.12	「〇〇の疑い」一考	審査総論	治療は確定病名で、保険病名と関連性、疑い病名の転帰、難病と特殊検査
2013.12	傷病名と保険診療	審査総論	審査ソフトと裁量権、プルターザー型逸脱事例、DPCでは治療・処置に対応する傷病名を
2012.2	病名、コメント、病状詳記	審査総論	病名不足、(慢性疾患)未整理で混乱；禁忌病名で査定、疑い」の放置、患者特有のコメント
2018.6	病名についてのお願い	審査総論、コード化、AI審査	気管支喘息と喘息性気管支炎の区別、学校検尿異常にコメント、湿疹部位、耳左右(両)の記載
2012.12	返戻への回答と再審査請求について	審査総論、再請求	返戻意図と的確な回答、傷病名の追加や修正、再審査請求は原本明細書で
2017.9	「返戻」に対する上手な対応	審査総論	査定回避のため、的確な説明や修正、過剰診療や保険病名疑い に注意、点数表・添付文熟読を
2012.8	気になるレセプト	審査総論	標準的診療と過剰、喘息(心身症)と特定疾患カウンセラー、迅速診断セット、
2015.10	最近の審査で気になること	審査総論、投薬、初診	保険給付なし；ケイツーSy、インフル予防投与、旧病名、末梢血液像、初診と転帰
2017.1	早すぎる治癒日・処置薬1回分処方	審査総論、記載方法	転帰記載の注意、初診算定は前病の投薬終了後7日経過して(別病では終了翌日)
2018.11	吸入療法の算定方法	審査総論、簡単な処置	基本診療料、ネブライザー、超音波ネブライザー
I. 基本診療料			
2012.1	初診料の算定について	基本診療料・初診料	抜粋規定、前傷病名すべてに治癒記載、同系統の急性疾患1週間、慢性1か月
2014.11	転帰の記入をお願いします	基本診療料・初診料	IT審査と縦覧、過去の全疾病が治癒であれば、1週間後には多くが初診料算定可能
2013.8	医科点数表の解釈から	基本診療料・電話再診	電話再診は治療上の指示に、検査結果連絡や予約は不可、受診同日注意、詳記
2013.11	小児科を標榜する保険医療機関における休日加算	基本診療料・初診料	年末年始などの時間外・休日加算、乳幼児診療特例、標榜診察日
2013.3	小児療養環境特別加算	基本診療料・入院料	ア)感染症(伝染病)、疑い不可、イ)易感染、乳児(1歳未満)、重症者等療養環境加算
2014.8	小児科外来診療料と在宅療養指導管理料	基本診療料・改訂分	小児科外来包括からシナジス患者を除外、在宅療養管理料は担当施設で分担算定可能に
2017.2	小児かかりつけ診療料についてー小児科外来診療料との比較	基本診療料	H28改訂、3歳未満(未就学)、1人-1診療所、電話不可
2018.1	小児かかりつけ診療料：ルールを守って算定しましょう	基本診療料	3歳未満、4回以上受診、抗菌剤適正使用
2018.7	小児抗菌剤適正使用支援加算 Q&A	基本診療料 (18,4改訂)	喘息、フローチャートで除外、中耳炎、水痘
2018.8	H30 4月の保険改訂での変更点いろいろ	点数表改訂(2)	遺伝学的検査(追加と細分化)、医療的ケア療養指導料、訪問看護
II. 在宅医療			
2019.6	夜間・休日の急患診療所における診療について	夜間・休日の急患センター	管理者と協調、検査病名；感染症、エコー、治療；確定病名、点滴、留置針は限定的、同日受診
III. 投薬			
2012.3	在宅療養指導管理料について	在宅医療、管理料、改訂	在宅医療の重視、退院前療養指導、在宅患者訪問診療、主たる指導管理
2012.9	小児在宅医療に関わる平成24年診療報酬改定について	在宅医療、改訂	在宅酸素は2か月に2回加算、小児経管栄養指導設定、成分栄養管理料と対象薬剤
2016.10	在宅酸素療法管理指導料と「3月に3回の加算請求」	在宅医療、加算、改訂	適応病名、材料加算、施設間連携と施設要件、複数の指導管理、胃瘻カテ交換(再掲)
2015.9	胃瘻カテーテル交換手技料の算定条件	在宅指導、処置	算定要件の画像診断；内視鏡、造影剤使用透視・撮影、超音波等、鼻腔栄養カテは除外
2019.7	成分栄養について：付)新しいADHD治療薬について	在宅医療、経管栄養法	在宅経管栄養管理料：成分栄養と小児の条件、器材加算、ADHD(ピバンセ、コンサータ)
IV. 検査			
2015.12	検体検査あれこれ(1)：判断料と管理加算	検査、算定規定	判断料；諸々の検体検査で月1回、管理加算と常勤医、遺伝学的検査とカウンセリング
2016.8	代替できない理由を診療報酬明細書に記載するようになった検査	検査、改訂と経過措置	29項目；ヘパプラスチン、全血凝固時間、膠質反応(TTT,ZTT)
2016.7	算定条件付きの検査	検査、規定	年齢；RS、ノロ、ヒトメタ、精密度点滴、留置針)、同時制約；溶連菌抗原・大腸菌血清型と培養
2017.3	算定要件のついている検査について	検査、算定要件	RS抗原、ヒトメタ肺炎、RS、Flu同時制限)、ノロ、25-HビタミンD、百日咳核酸
2018.9	フェリチンと血中ケトン体	検査、生化学検査1	血液化学1包括部(糖、鉄)とHbA1C、フェリチンの関係、同(ケトン電極法)と血中ケトン体
2014.3	呼吸器疾患と呼吸器機能検査・その他	生理検査、呼吸器機能	フローボリューム(薬効)、肺気量分画、術前、判断料、SpO2と小児の特殊性、障害児
2011.11	喘息性(様)気管支炎	アレルギー疾患、病名	喘息性気管支炎から「気管支喘息」へ、抗生剤には気管支炎の併記
2014.2	アレルギー検査	アレルギー疾患、検査	特異的IgEは確定病名、皮内併施不可、小児食物負荷、喘息運動負荷、エビペン2本
2016.3	アレルギー疾患の検査	アレルギー疾患、検査	特異IgEの反復検査(乳児3ヶ月、以後6ヶ月)、呼気ガス、喘息発作とSpO2、TARC
2012.11	3点(4点)セット	感染症、抗原検査	インフル、アデノ、溶連菌、咳嗽や年齢で優先度、包括化と負担年令、診察前検査、傾向的
2017.1	繰り返す検査に注意してください	感染症・腎・内分泌、検査	縦覧点検、疑いで反復にはコメント、複数検尿、セット検査は禁物(膠原病・内分泌)
2015.3	おもな迅速抗原検査について	感染症、検査	病名に病原体、抗原・抗体の併施は不可、RS、ヒトメタノロ、マイコ抗原・核酸
2016.1	検体検査あれこれ：末梢血液像、マイコプラズマ感染症の診断	感染症、検査	マイコ抗原と抗体併施は不可、核酸同定(LAMP)；学会見解と肺炎の診断、治療薬
2016.2	検体検査あれこれその2	感染症、検査	特定病原体検査には病名、診療所と外注検査、ペア血清の間隔、HBs抗原(88点)；診断、術前
2012.4	抗生物質と微生物学的検査	感染症、検査・治療	最小単位の抗生剤、適応症、嫌気性培養の検体と適応、感受性は起炎菌に、S-M(顕微鏡)
2013.9	細菌培養同定検査	感染症、培養検査	病原性大腸菌血清型別は1日受診で可、ノロ、ロタ確定後は細菌培養不要、嫌気性培養検体

保険診療メモ

「小児科保険診療メモ」をより身近に

	V. 疾患, 診療分野		
2014.5	B型肝炎ウイルス母子感染予防のための新しい指針と保険診療	感染症, 予防と保険	学会HP, HBs抗原陽性母体, ワクチン3回後検査は保険, 追加に注記, 接種期間の初診料不可
2017.12	消えないウイルスとの戦い / B型肝炎ウイルス (HBV)	感染症, 肝疾患, 免疫抑制	HBV閉鎖環状DNAと de novo肝炎, 生物学的製剤 (リツキサン, レミケード) 前の検査手順と病名
2019.1	免疫抑制剤・化学療法・型肝炎の抗ウイルス療法等におけるB型肝炎関連検査	感染症, 肝疾患, 免疫抑制	HBV再活性化, HBs抗体, HBc抗体, DNA定量, HBワクチン接種児とHBc抗体
2018.12	健康保険適応のあるワクチン	感染症, 予防	破傷風トキソ, 髄膜炎菌 (4価), 肺炎球菌 (23価), B型肝炎, 適応病名, コメント
2013.10	RSウイルス感染症とシナジス (パリスマブ)	感染症, 予防, シナジス	初回投与日 (月齢), 適応拡大 (免疫不全, ダウン症), BPD 治療履歴, 高薬価
2015.4	シナジス筋注液の投与について	感染症, 予防, シナジス	投与開始日, RS流行期, 注射手技料 1回, 血行動態異常の先天性心疾患, 小児感染学会G L
2016.9	シナジス投与について	感染症, 予防, シナジス	生物由来製品, 対象傷病名, 注記事項: 筋拘縮症, 関連学会G L; 適応と除外患者,
2013.1	インフルエンザ治療薬	インフルエンザ, 治療	1エピソードに薬剤1種; イナビル吸入失敗の再請求不可, ラビアクタ原則 1回 (2回目詳記),
2014.1	インフルエンザ (2013-14)	インフルエンザ, 検査・治療	迅速検査; 1病 2回, 治癒後1週以上別病名 (最大月4回), 抗生剤の適応なし, 予防投与は自費
2015.2	インフルエンザについて	インフルエンザ, 検査・治療	タミフル; 乳児処方と学会, イナビル, ラビアクタ反投与に詳記, 予防投与 (自費薬剤) の要件
2018.2	インフルエンザの診療について	インフルエンザ, 検査, 治療	抗原検査: 2回, 再検査は中止後1週, タミフル (乳児), ラビアクタと詳記, 対症療法薬
2017.7	小児科循環器診療: 外来検査	循環器, 外来検査	小児科療養指導料, 負荷心電図, 顔面浸水, 心臓超音波, CK(Iso,MB), BNP, 心臓CT
2018.1	超音波検査 (D215): 胸部部、その他、パルスドプラ法など	消化器・腎疾患, 超音波検査	胸部部とその他」は同一検査法, 再検査に注記, 適応は形態異常, パルスドプラ法, 残尿,
2012.10	腎、尿路関係あれこれ	腎尿路, 検査・治療	早朝尿と外来尿に注記, 超音波検査, シスタチンC, 自己抗体, NAGとβ2 MG, プレディニン
2015.5	小児ネフローゼ症候群	腎疾患, 治療	難治性, リツキサン, ネオラル, プレディニン, プログラフ, 学会G Lと保険, 処方増に詳記
2017.11	学校検尿陽性者の検査と傷病名	腎疾患, 検診・検査	病名, コメント, IgA腎症, I検診マニュアル, 蛋白尿, 2回尿, 補体, B2 MG, NAG, 超音波
2016.4	腫瘍マーカー検査実施料と悪性腫瘍治療管理料	悪性腫瘍, 検査・管理	腫瘍マーカー再算定, 悪性腫瘍管理料, 肝疾患とAFP,PIVKA-II, sIL-2R
2011.10	効能・効果で併用が必要とされる抗てんかん薬の取り扱い	神経, 治療	ガバペン, イーケオプラ等は単剤移行時にコメント, CT/MRIと病名, 高アンモニアはVPAのみ
2015.1	心身症と心身医学療法	心身症・精神疾患, 指導	傷病名; 身体的症状 (心身症) と心身医学療法, 通院精神療法, カウンセリング
2016.10	小児神経, 心理学的疾患の検査や指導料について	神経・精神, 検査, 指導	神経学的検査, 発達及び知能検査, 特定カウンセリング, 心身医学療法, CT/MRIと鎮静麻酔
2015.8	ADHD, 自閉症スペクトラムについて	精神・発達障害, 治療	DSM-5, ADHDとコンサータ, ストラテラ, 広範性発達障害・自閉症とリスパダール
2017.8	最近の自閉スペクトラム ADHD治療薬と抗てんかん薬について	神経・発達障害, 治療	向精神薬 (リスパダール, エピリファイ) 適応拡大, インチュニブ, 新しい抗てんかん薬
	VI. リハビリ, 麻酔など		
2019.3	小児の理学療法 (リハビリテーション) その1	リハビリ概論, 小児リハ	小児リハ報告書 (H29), 1日6単位, 超3単位 (60分) にコメント, ダウン症に各機能障害を明示
2019.5	小児の理学療法 (リハビリテーション) その2	脳血管リハ, 障害児 (者) リハ	脳性まひ, 高次脳機能障害, 医療型入所施設等; 常勤医, 療法士2名以上, 専用訓練室
2011.12	静脈麻酔と医療安全	麻酔, 検査・処置	麻酔薬と鎮静剤の区分, 長時間 (10分以上時間記載), EF, 生検, 腸重積, MR 造影時は不可
2014.9	静脈麻酔と小児医療の特殊性	麻酔, 改訂	静脈麻酔薬, SpO2, 長時間 (時間記載); MRI, 心エコー, カテ, 嚥注, 骨穿, 内視鏡, 腸重積整備

2012.6	九州小児科審査協議会報告 2011 佐賀 (1)	基本診療料, 検査	小児療養環境加算, 救急医療加算, 特定薬剤管理料と抗てんかん薬血中濃度: 食物アレ 負荷, TARCはアトピー性皮膚炎: 血液培養, Epi と高アンモニア, その他エコー
2012.7	九州小児科審査協議会報告 2011 佐賀 (2)	治療・処置	喘息と抗生剤, 抗アレルギー剤 (オノンDSとキプレス, シングレアの違い), リンデロンVG: プレディニンは難治性NS, 未熟児と脳血管リハ, 呼吸器リハ: 静脈留置針と年令
2013.4	九州小児科審査協議会報告 2012 宮崎 (1)	基本診療料, 検査	在宅酸素療法と先天性心疾患, NICUとコット, アレルギー疾患と初診料: 尿沈査とS-Mは併施不可, 溶連菌抗原再検査, マイコプラズマ抗体・抗原・核酸, PCTと血培
2013.5	九州小児科審査協議会報告 2012 宮崎 (2)	治療	処方上限は成人量, 化学療法中もフルコナゾールには深在性真菌症, プレディニンは難治性NS, 2倍量まで: ヒルドイド, ホクナリンテープ, メトゾリン, タナトリン
2013.6	九州小児科審査協議会報告 2012 宮崎 (3)	処置・麻酔など	高位洗腸, 皮膚欠損用創傷被覆材, 輸血の対象病名: 諸検査と静脈麻酔, ドルミカムは鎮静剤, 軟腫腫摘除: 傾向的請求への取り 組み紹介
2014.6	九州小児科審査協議会報告 2013 沖縄 (1)	基本診療料・検査	アレルギー性鼻炎は治療終了 (治療) 1月で初診料: 川崎病と心エコー, FDP/ DD・TRAb/ TSAbは併施不可, β2MG/ NAGは病名による: 肥満関連検査には各病名,
2014.7	九州小児科審査協議会報告 2013 沖縄 (2)	治療・処置	エルカルチン適応, 喘息と抗生剤 (長期, 短期), クラビット錠500)小児に禁忌, コンバトリンDS 2回, 夜尿治療 (スモプレシン, ウトリス), カプトリン, 新生児ドレーン法
2015.6	九州小児科審査協議会報告 2014 大分 (1)	全般・検査	在宅指導管理料に 材料は含む, 療養環境加算, 退院日NICU加算, 救急医療: アレルギー疾患初診は1カ月の空白後, 尿沈査, 腹部エコー適応病名, 輸血後感染検査
2015.7	九州小児科審査協議会報告 2014 大分 (2)	治療	プレディニン2倍まで, ミトコンドリア病とノイキノン, リスパダールは自閉スペクトラム必須薬, 胃腸カテ交換とエコー 造影確認, CT/MRIと点滴料算定条件, 鎮静法
2016.4	九州小児科審査協議会報告 2014 長崎 (1)	検査	特定薬剤管理料と 適応: アレルギー疾患と初診, 喘息特例の経緯: DIC, 線溶系: 輸血, 自己血貯血, K除去フィルター: 学校検尿: VPAとアンモニア検査頻度: 血液ガス
2016.5	九州小児科審査協議会報告 2014 長崎 (2)	治療・処置	オゼックスDS・オラベナムDSの適応病名: 食物アレルギーと抗アレルギー剤: 血球貪食症候群と GG, VP-16, シクロスポリン: 成人用アドエア適応年令: 鼻処置, 高位洗腸
2017.4	九州小児科審査協議会報告 2016 熊本 (1)	検査	退院日NICU加算不可: 心身医学療法適応症: アレ鼻炎の初診, マイコ核酸・抗原・抗体は一項: 学校異常尿の検査: 嫌気性便培養, 中耳ファイバー, 橋本病母体と児
2017.5	九州小児科審査協議会報告 2016 熊本 (2)	治療・処置	成長H処方90日まで, 脱水症とメイロ, 初診時ヒルドイド量, セフェム・マクロライド併用は裁量, ホクナリンテープと年令, ジスロマック再投与は10日以上の間隔
2018.4	九州小児科審査協議会報告 2017 福岡 (1)	基本診療料, 管理料, 検査	乳児検診後の出来高算定, 溶連菌後検尿は再診: MRSA感染部位, 特定カウンセル2年超不可例: 特発性関節炎 (RA) とMMP-3, RF, HBV核酸定量, 心筋炎とTnT
2018.5	九州小児科審査協議会報告 2017 福岡 (2)	治療, 処置・リハビリ	アドエア100は10才以上, リスパダール・エピリファイ (年令, エピベン), バルトレックスの幹細胞移植後投与期間: 導尿 (拡張) は女児も可, 新生児低温療法と心肺蘇生
2019.4	九州小児科審査員協議会報告 2018 鹿児島 (全)	Q&A 27件	初診, 皮膚 (皮脂欠乏は処方量, アトピーは慢性), 溶連菌後検尿は再診: 精密点滴に抗がん剤: 嫌気性培養, 百日咳診断: 学校検尿, 呼吸ガス, フルタイド: 喀痰吸引

役員会報告（9月5日：木曜日）

協議事項・報告事項

報告事項

- ① 福岡県小児科医会、会長副会長会(8月22日)
10月5日(土曜) 福岡県小児科医会役員勉強会：於；福岡市各地区から役員が出席しての勉強会。
演題は北九州地区・福岡地区から1題ずつ出し、当会からは『発達障害への取り組みについて』
- ② 小児保健研究会(梶原) 令和元年第1回理事会 8月20日

協議事項

- ① 第56回北九州地区小児科医会総会(令和2年1月19日)
特別講演：【発達障害のある子どもと楽しさを共有
できる診療をめざして】
久留米大学小児科主任教授 山下裕史朗先生
専門医更新単位の申請をする
- ② 将来構想委員会
10月に開催予定

委員会報告

1. 学術委員会報告：神菌淳司
10月17日 富山大学の種市先生に脳死関連
11月21日 大阪大学の皮膚科の先生に講演依頼
12月19日 インフルエンザ（ゾフルーザ）関連を予定。
2. 発達障害・療育対策委員会報告：原田博子
8月30日に『第1回多職種で考える発達障害と療育研究会』講演会を行いました。参加者96名（医療機関37名）
- ① 「学校における発達特性のある児童生徒への支援について
—スクールカウンセラーの活動を通して」
講師 スクールカウンセラー 安達都耶子氏
- ② 「スクールソーシャルワーカーの活動
—発達障害課題ケースを中心に—」
講師 スクールソーシャルワーカー 角田かおり氏